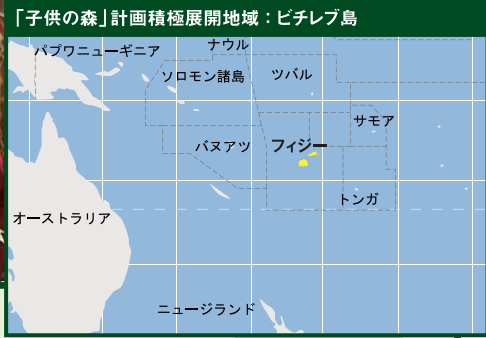


# 「子供の森」計画

in フィジー



## 2012年の活動と2013年の展望

子どもたちの「自然を愛する心」を育みながら地球緑化を進める「子供の森」計画。南太平洋に浮かぶ島国フィジーでは、海面上昇による海岸浸食や大雨による土砂災害といった異常気象などによる自然災害が多発しています。子どもたちは自分たちの未来を、村を、ふるさとを守るために、必要な行動を考え、実践しています。学校や地域の陸地にはマホガニーや果樹などの木を、海岸へは海の森ともいわれるマングローブを、一所懸命に植え育てています。また近年一部の学校では、子どもたちの環境教育プログラムの一環として、鶏を育てる活動も始めました。これは、生き物を育てるとい

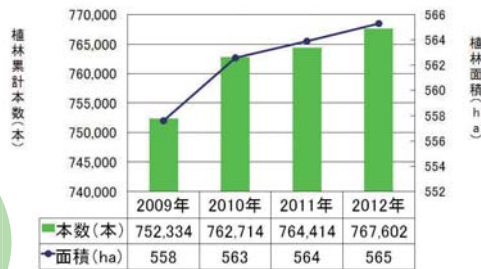
貴重な体験を通して自然との共生を学びながら、鶏糞を活用した堆肥作りなどの循環型生計活動を学ぶ良い機会となっています。さらに、子どもたちの栄養改善につながる学校の支援策としても、大きく注目されています。これからも、子どもたち、そして地域の人たちの力を引き出せるような環境教育とコミュニケーションを大切にしながら活動に取り組んでいきます。



フィジー担当 菅原弘誠

2012年植林実績：植林 **3,188** 本・面積 **1.4** ha  
「子供の森」計画参加学校数：57 校（1993年からの累計値）

## 2012年までの植林実績



## フィジー

- ◆人口：0.894百万人（2012年IMF推計値 日本は127.896百万人）
- ◆面積：18,272km<sup>2</sup>（総務省統計局資料2010年値 日本は377,950km<sup>2</sup>）
- ◆一人当たりGDP：4,243.526US\$（2012年10月IMF試算値 日本は45,869.72US\$）
- ◆森林率：56%（2010年FAO公表値 日本は69%）

フィジーの活動を支援して下さる方を募集しています。ご支援や各地域の子どもたちの活動の様子はこちらから

**ベルマークや書き損じはがきも募集しています。**  
ベルマークは1点1円として「子供の森」計画の支援となります。事務局までお送りください。

➡「子供の森」計画情報提供サイト  
[www.kodomonono-mori.info](http://www.kodomonono-mori.info)



事務局



〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12  
☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111  
<http://www.oisca.org/>

E-mail [oisca@oisca.org](mailto:oisca@oisca.org)



## 学校を、村を、ふるさとを守るマングローブ植林

フィジーで最も大きなビチレブ島の北東に位置するラ県に、ナルクニ小学校はあります。海に面し、また背後には岩肌の山がそびえたち、車で行くことができないこの学校には、唯一の交通手段であるボートで行かなければなりません。

地球温暖化が原因とされる海面上昇による海岸侵食の問題は深刻で、地域では過去20年の間に約10mも海が近くなりました。2012年、この場所でオイスカが中心となり



海岸が浸食され木が倒れ、海が学校近くに迫る

大規模なマングローブ植林が始まったことをきっかけに、ナルクニ小学校も「子供の森」計画に参加しました。子どもたちも協力し、みんなで植えるこのマングローブが海

岸浸食を食い止める唯一の望みです。しかし、それだけでなく、子どもたちは木を植えること自体をとっても楽しんでます。今後はマングローブだけでなく、山の木や美味しい実をつける果樹の植林も計画しています。海から山に、楽しく木を植えることで子どもたちの心に自然の大切さが染み渡っていくでしょう。



子どもたちが苗づくりから関わることで、「育てる」こと、環境と人の関わりを学ぶ



マングローブを楽しんで植える子どもたち



## 「子供の森」計画、再びスタート

「子供の森」計画の活動を開始して20年近く経つフィジーでは、以前活動に参加しすでに森を育て終えている学校も多くあります。ワイ小学校もその一つでした。しかし、当時植えたフィジー松は成長した後伐採され、学校の新しい教室や宿舍の建設などに活用されました。「子供の森」計画では、当然、植林した木は大切に育てることを教えていますが、子どもたちが勉強する学校にとってプラスになり、再植林をするなど次の森づくりへつなぐことができれば、木の活用も一つの森づくりの方法と考え、学校側にも継続的な活動を促しています。ワイ小学校では、新しく着任した校長先生が「子供の森」計画のファンであり、伐採した場所や学校周辺に再び植林をしたいとの強い思いがあったことから協力の要請を受け、再度活動を始めることになりました。

校長先生の積極的なリードのもと、同じ敷地の中にある幼稚園の園児や保護者たちも植林に参加しました。小さな子どもから大人まで、幅広い年齢層の村人たちが一緒に活動することにより、森が長期的に大切に守り育てられるよう、これからも森づくりを進めていきたいと思えます。



苗木を持ち、植林への意気込みを見せる生徒たち



同校敷地内にある幼稚園の園児も植林に加わった

## TOPICS

### フィジーから海を越えて

フィジーと聞いて日本人がイメージするのは、「南の楽園」「きれいな海」でしょうか。でも、それが逆となると、そうはいきません。フィジーの子どもたちが「日本は文明が進んだ国」、と聞かされてもなかなかイメージできません。なぜなら、フィジーにはまだ電気が通っておらず、自然の中で自然とともに生活している人が多くいるからです。

そんな環境の中から、先生1名と2名の生徒が、「子供の森」計画の親善大使として日本に行きました。飛行機、高いビル、多くの人、時間通りに来る電車……すべてが新鮮で、驚きだったようです。人生を変えるほどの経験をしてきた彼らの、これからの活躍を見守りたいと思えます。



フィジーに帰国後、より積極的に活動に取り組む先生と生徒たち